



呉トピックス



▲苗を丁寧に植え付ける児童たち



▲児童たちの手によってかけられた防虫ネット



やさしく植え付け 呉の伝統野菜「広甘藍」

9月4日、呉市立明立小学校4年生32人が呉市郷原町で地元の伝統野菜「広甘藍」の苗およそ350本を植え付けました。体験圃場を提供したのは広カラン生産組合の倉西大助さん。同校の総合的な学習の一環として呉市の農業体験・食農教育支援事業を活用、12月には収穫を体験する予定です。

呉市職員から「苗を折らないようやさしく」と植え付け方のアドバイスを受けた児童は、生産者やJA職員に手伝ってもらいながら、手作業で植え付けたあと、ペットボトルで液肥を施し、虫の食害を防ぐネットを張る一連の作業を体験しました。

児童らは「普段は土を触ることがないので楽しかった。収穫するのが楽しみ」と残暑厳しい中、作業に汗を流しました。



蒲刈アグリセンター 移転オープン

9月1日、JAは蒲刈アグリセンターの移転と蒲刈店のリニューアルを行ないました。

アグリセンター移転後は蒲刈支店の隣に位置し、蒲刈地区の営農指導拠点として活動します。

また、蒲刈店では9月1〜3日までリニューアル記念として、1日100名限定で記念品をプレゼント。お米の特売、キッチンカーなどのイベントを開催し、来場者ににぎわいました。

「これからも、JAは地域、組合員に密着した活動を続けてまいります」と今田隆司センター長は話しました。



▲蒲刈支店隣に移転した蒲刈アグリセンター



秋の旬到来 イチジク「蓬萊柿」荷受・出荷始まる



▲出荷されたイチジクを荷受するアグリセンター職員

8月18日、JA江田島アグリセンターでイチジク「蓬萊柿」の荷受け・出荷が始まりました。多い日には1日に2,000パックを超え、10月末まで16,000パック(約5t)の出荷を見込みます。

「蓬萊柿」は熟れてくると果頂部が星型に開き、豊かな甘い香りと味、プチとした食感が特徴です。

荷受に追われる江田島アグリセンターには、毎日早朝に収穫し、選別・箱詰めされたイチジクが運び込まれます。



なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

■イチジク

▽採取

採取も終盤となります。
秋の深まりとともに気温も下がるため、小玉果や未熟な果実が増えてきます。

今年の採取を終えたあとも、果実が樹上に残っていると思います。

今年は5〜6月の降雨が多かったため、過湿傾向の園地では病気が発生しています。

樹上に残った果実をそのまま放置すると、翌年の病害虫の発生原因となるので、可能な限りすべて摘果し園外に持ち出して処分するように心掛けてください。

▽間伐

密植園では、作業性や風通しが悪く、また日照不足となることから、

着色不良や病害虫の発生など、品質低下を招きやすくなります。

せん定で樹を切り詰めようとする、強せん定となり、勢いの強い枝が多く発生し、果実肥大の低下や熟期の遅れ、着色不良などで品質が低下してしまいます。

葉があるうちに園地の混み具合をみて、密植になっていたら間伐を行ないましょう。

イチジクは、他の品目と比べ樹冠が大きくなりやすいです。

植栽間隔は広くとるよう心掛けましょう。

■カキ

▽元肥の施用

元肥は葉にチッ素を供給し、翌年の貯蔵養分を蓄える働きがあります。

施用時期は、10月（気温が高く葉のある時期）に施用するのが重要となります。

落葉後に施用しても吸収されないで遅れないように注意しましょう。

ただし、強勢な芽が多く出ている場合や、葉が大きすぎる樹へは施用を控えてください。

■モモ

▽元肥

夏季の葉の大きさや葉色、徒長枝（勢いの強い枝）の発生本数などで、元肥の施用数を調整します。

樹勢の強い場合は施用量を少し減らしましょう。

施肥時期は、カキ同様に地温の高い10月中に肥料を施用しましょう。

▽土壌改良

モモは他の果樹に比べ浅根性で成長が早く、成園に早くなります。

細根が少ないとすぐに樹勢が弱ってしまいます。特にマサ土（花崗岩土壌）は、水はけがよいのですが、乾燥しやすいため、樹勢が弱ると、若樹であっても幹からゼリー状の物質が発生することがあります。

土壌改良により細根量を多く保つことが重要となります。（図1）

また、耐水性にも弱いので、水はけが極端に悪い園地では、明きよな

どの排水対策を行なったうえで土壌改良を行なうのがよいです。

■キウイフルーツ

▽かん水

乾燥が続く場合は、葉が傷み落葉することがあります。

引き続き、適度な土壌水分を保ちましょう。

■ブドウ

▽縮伐

枝を切るのは、冬の作業と思いがちですが、落葉後は貯蔵養分を貯めきってしまったため、春先の地上部と根のバランスが悪くなり発芽にバラツキが起こりやすくなります。

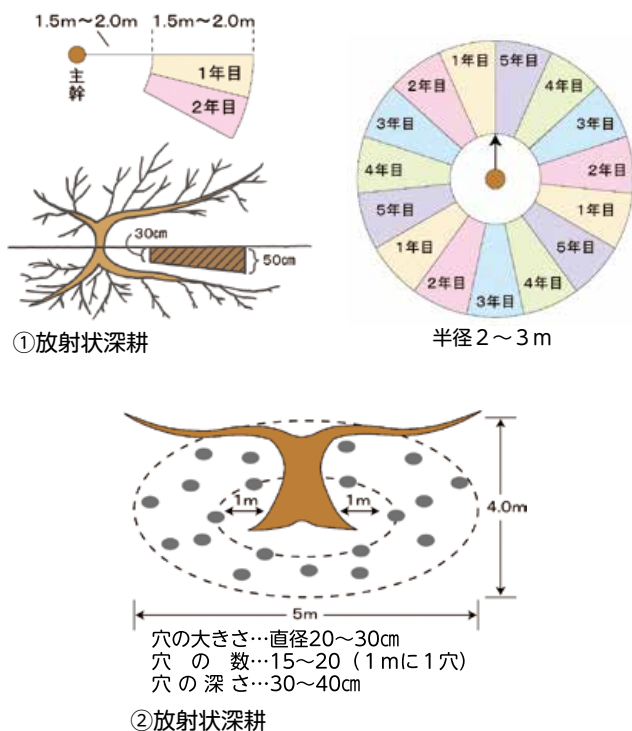


図1 土壌改良の方法（「因伯の果樹」より）

成木を、太い枝単位で切り縮める時期は、収穫直後が適期となります。

一言

今年の秋の気温も、平年より高くなると予想されています。

みなさんも天候に振り回され、バテ気味となっていると思われませんが、植物も疲れ切っています。

人も植物も、疲れを回復させるために栄養補給（ケルパック072などの葉面散布剤の散布）など様々な取り組みを行ないましょう。

家庭菜園

10月は夏の名残を感じながらも、気温が下がり秋らしさが深まる季節です。家庭菜園では、夏野菜の片付けと冬・春に向けた準備が大切な時期です。昼夜の寒暖差が大きくなるため、植え付けのタイミングや管理に注意しながら、次のシーズンに備えましょう。

これからの季節の栽培に適したほうれん草とエンドウの栽培ポイントを紹介します。

●ほうれん草

○特徴

アカザ科ホウレンソウ属

連作障害を防ぐため、1年間アカザ科野菜を作っていない場所を選びましょう。アカザ科（ほうれん草、フダンソウ等）は、野菜の内で酸性土壌に最も弱いです。

○生育適温

10～20℃

0℃で生長が停止します。

マイナス10℃まで寒害を受けません。

ほうれん草の性質上、9～10月に種をまく秋まき秋冬どり栽培が容易です。

低温期はじっくり育ち、ビタミンCなどの栄養価が高く、甘みもましてくる。

○栽培ポイント

1. 基肥の目安（10㎡あたり）

堆肥20kg 石灰資材1.5kg

化学肥料1.5kg

2. 播種

酸性土壌にとっても弱いので苦土石灰などの石灰と堆肥を施し、改善しましょう。

種は畑に直播きし、1年以上アカザ科の作物を作っていない場所にまきます。

高温多湿だと発芽しないため、長雨による畑の冠水、湿潤に注意しましょう。

まき方は条まきにし、1週間ごとに少しずつまくずらし栽培もできます。

発芽して葉が2～3枚に生育するまでの間、葉がしおれたり、地

ざわが細くなったり根が褐色になって枯れたりする苗立枯病に気を付けましょう。

3. 収穫

草丈22～25cmで収穫適期となります。順次収穫できるので、20cmを超える頃から収穫をはじめます。

9月まきは、40～60日後

10月まきは、60～90日後

11月まきは、90～120日後

に収穫できます。

●エンドウ

○特徴

マメ科エンドウ属

連作障害に弱く、同じ場所での栽培は避け3～5年以上の間隔をあけて栽培しましょう。

連作すると発芽が阻害され、枯れ上がったたり、収量が激減します。

○生育適温

生育適温は10～20℃

低温に強く、若い苗の状態なら氷点下でも耐えられます。

冬越しに適した苗の大きさは、草丈10～20cm程度です。

一般地での種まきの時期は、10月中旬～11月上旬です。とくに早まきには注意しましょう。

○栽培ポイント

1. 基肥の目安（10㎡あたり）

堆肥20kg 石灰資材1kg

化学肥料0.5～0.7kg

B Mよりりん0.3～0.5kg

2. 播種

種をポリポットにまいて、育苗後に植え付けるのが一般的です。水やりや間引きなど効率よく管理ができ、植え付け時に良い苗を選べるのが育苗の利点です。

本葉が4～5枚で定植しましょう。

3. 支柱たて

エンドウの支柱は、草丈20cmほどになったら、株から約10cm離して立て、風で倒れないように根元から10cm以内、30cmほどの深さまで、やや斜めに差し込みます。支柱の根元から10cm以内は根が傷つく可能性があるため、支柱は株から離して設置するのがポイントです。支柱を立てた後は、つるが絡みやすいように、30～40cm間隔で横に麻ひもを張るか、園芸用ネットを張って誘引しましょう。

4. 収穫

食べる部位によって収穫期もそれぞれ違います。

若くやわらかい莢を食べるキヌサヤは、莢が平べったく莢の中の豆が目立たないうちが収穫期です。

実を食べるグリーンピースは、莢がパンパンにふくらみ実が太ってきたら収穫期です。

実と莢を食べるスナップエンドウは、実が大きくなっても莢はかたくありません。収穫の幅は広いですが、莢がおおきくならないうちに収穫しましょう。

呉地域野球部 優勝の栄冠に輝く 第49回 広島県 J A 役職員定期野球大会

呉地域野球部は第49回広島県 J A 役職員定期野球大会に参加し、優勝の栄冠に輝きました。
今大会は15チームが参加し、8月30日にやまみ三原市民球場にて1・2回戦が開催され、9月6日に決勝トーナメントが行なわれました。準決勝では安芸地域野球部に3対1で勝利し、決勝では昨年優勝の広島中央地域野球部を高田大輔選手、丸山覚博選手の完封リレーで2対0と見事優勝の栄冠に輝きました。



高田大輔選手
(呉ローンセンター)



優勝旗を受け取る森藤主税選手



越智雄大選手
(呉涉外トレーナー)



丸山覚博選手（蒲刈支店）



見事優勝した呉地域野球部の皆さん



吉田健一郎選手（資産・相続相談課）

ときめき ♡ 女性部通信

『家の光』を持ち寄り読書会

J A 女性部呉地区本部音戸支部の田原グループでは毎月読書会が行なわれています。

J A グループの家庭雑誌である『家の光』を持ち寄り、掲載されている記事を活用した音読や体操、手芸、料理教室などを行ない、くらしに役立つ情報の共有やグループの結束力アップに役立てています。

J A 呉地域管内では、音戸支部を含め6つの読書会グループがあり『家の光』の記事を活用して交流を深めています。



熱心に読書会を行なう女性部の皆さん

